

「仁淀川の森と水を考えるシンポジウム」
～豊かな海、豊かな川は、健やかな森、山から始まる～

日時：令和6年12月1日(日) 午後2時～4時30分

場所：土佐市複合文化施設つなで「ブルーホール」

主催：仁淀川漁業協同組合

共催：仁淀川流域交流会議、仁淀川清流保全推進協議会

12月1日(日)、仁淀川漁業協同組合主催でシンポジウムが開催され、約70名が参加しました。

同組合では、長年にわたり河川の生物多様性を求め、山の保水力、水質ろ過能力などの自然流状況の復元、植樹活動などを通じて「森、山の重要性」を訴えてきました。今回は、名古屋大学の五味高志教授から「流域の視点でみる森と川」と題した基調講演と、高知県内水面漁業センターによる「高知県のアユ初期生活史解明の試み」の報告がありました。

基調講演では、流域を循環系として捉え、森林管理による森林の質の変化と流域の水土保持機能や河川環境評価の重要性について、流域治水の観点や技術的な視点から紹介いただきました。また、森と水のしくみや川とのつながり、生態系構造・食性などについて、調査研究データや写真、イラストを交えてわかりやすく解説いただきました。そして、森林管理の今日的な課題や溪畔林の重要性の示唆、多様な森林状態をより良く生かしていくための試みについて、国外事例やいの町と森林総合研究所との共同調査研究の紹介がありました。

質疑応答では、間伐や植樹などにより実際に水を増やすことができるのかとの質問があり、五味教授からは、流域の個性により結果は様々でどうしたら良いかの答えはでていない、それでも大切なことは流域的視点で関係者が協議し、皆で考え続けることである、とのコメントをいただきました。

県内水面漁業センターの報告では、アユの生活史について、仁淀川や物部川、四万十川におけるアユの流下や遡上の状況調査の結果の報告があり、その影響要因などについての考察、今後の調査の展望などについて紹介がありました。

